

琉球漆器ってなんだろう?—見て・知って・楽しむ常設展—

来年2月1日に当館は30周年を迎えます。開館当初から常設展では「琉球王朝文化の華—漆芸—」と題して、琉球漆器を中心とした漆芸品を紹介しています。今回はあらためて子どもも大人も楽しめるように、琉球漆器の魅力を紹介しします。

第1室「琉球漆器ってなあに?」では王国時代の漆器と沖縄県になってからの漆器の歴史をわかりやすく紹介します。第2室「好きな漆器を探してみよう!」では展示品の人気投票などを行います!第3室「琉球漆器の不思議な世界」では、漆器の修復やレントゲン撮影などからわかる情報などを紹介します。第4室「くらべてみよう!アジア漆器ワールド」では、中国・朝鮮・日本・東南アジアなどの漆器を紹介します。第5室「漆器にさわってみよう!」では、なかなか手に取る機会が少なくなった漆器にふれていただきます。また、堆錦のパーツを貼しおり作り(100円)や「漆スゴロク」をお楽しみください。

【会 期】5月26日(日)~9月23日(月)

【観 覧 料】一般 200円(160円) 大学生 130円(100円)

65歳以上 160円 高校生以下 無料

* () は20名以下の団体料金

【ギャラリートーク】毎週日曜日 14時~15時

(行事が重なると、お休みになる場合があります。)

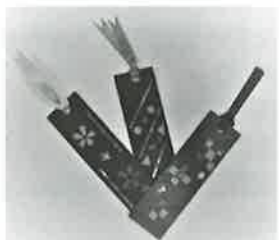
平成30年度新収蔵品展

平成30年度は、中国皇帝への朝貢品と考えられる最大級の黒漆雲龍螺鈿大盆(18~19世紀)と、朱漆龍鳳凰文堆錦平卓(19~20世紀)の琉球漆器を購入しました。また、琉球王家の紋章左巴紋と牡丹唐草を沈金技法で表した朱漆牡丹巴紋沈金足付具をはじめ、中国・日本・東南アジアの漆芸品や王国時代の金工品を再現している又吉健次郎氏の房指輪なども寄贈いただきました。新たな収蔵品を紹介いたします。

【会 期】平成31年4月27日(土)~5月12日(日)

【会 場】企画展示室1

【観覧料】常設展観覧料金(一般200円) でご覧いただけます。



堆錦(ついきん)のパーツを貼り付けたしおり作り体験。
※数に限りがあります。お早め!



朱漆牡丹巴紋沈金足付具は、琉球王国の祭具の一部と考えられる貴重な作品です。

ご 案 内

◆企画展スケジュール 2019年3月~8月

◇琉球八景展

【会 期】4月27日(土)~5月12日(日) 【会場】企画展示室2

◇平成30年度 浦添市美術館 実習教室作品展

【会 期】4月26日(金)~5月12日(日) 【会場】講堂

◇第21回浦添市美術館友の会・サークル展

【会 期】6月19日(水)~6月30日(日) 15時まで

【会 場】企画展示室1・2・講堂

◇儀間比呂志・中山良彦 沖縄戦版画集「戦がやってきた」原画展

【会 期】6月19日(水)~6月30日(日) 【会場】企画展示室3

◆共催展のお知らせ

◇第45回沖縄県書道展

沖縄県書道美術振興会に所属する県内の書家(約30会派)の作品約160点を展示します。

【会 期】6月12日(水)~6月16日(日) 15時30分

【観 覧 料】無料

【お問合せ】沖縄県書道美術振興会 TEL:098-865-5255

◇魔法の美術館2019

本展では作品を科学的に説明せず、未来のアート作品として来館者の皆様が作品の中で体感していただくことを目的に開催します。

【会 期】7月13日(土)~8月25日(日)

【観 覧 料】一般1,000円、中高生800円、小学生600円、3歳以上~幼稚園児300円

※前売り券及び15名以上の団体割引有り

【お問合せ】(株)琉球新報社 TEL:098-865-5200

◇写真展 岩合光昭の世界ネコ歩き

NHK BSプレミアムにて放送されている「岩合光昭の世界ネコ歩き」の写真展です。

【会 期】9月6日(金)~10月27日(日)

【観 覧 料】一般800円、小中高生400円、未就学児無料
※前売り券及び団体割引有り

【お問合せ】(株)沖縄タイムス社 TEL:098-860-3573

※展覧会名称や日程は都合により変更になる場合があります。

編集・発行 浦添市美術館
URASOE ART MUSEUM

〒901-2103 沖縄県浦添市仲間1丁目9番2号
TEL:098-879-3219 FAX:098-878-1221
HP: http://museum.city.urasoe.lg.jp/



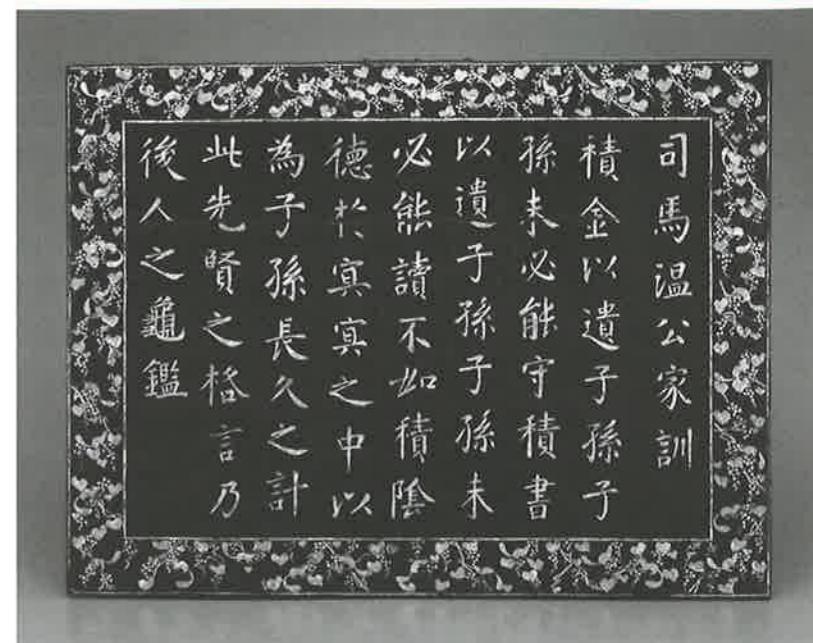
開館時間: 9時30分~17時(金曜日のみ19時まで)

*入館はいずれも閉館30分前まで

休館日: 月曜日(祝日にあたる日は開館)、
年末年始(12月28日~1月4日)、その他臨時休館有り



浦添市美術館ニュース 2019年3月1日(年2回発行)
きよらさ:「美しさ」「きよらかさ」を表す琉球の古語



平成30年度 第3期常設展 展示作品

くろうるしし ばおんこうかくんらでんかけばん
「黒漆 司馬温公家訓螺鈿掛板」
(浦添市指定有形文化財)

作品解説

中国北宋の政治家で学者の司馬温公の家訓が書かれた掛板。掛板とは壁に吊るす飾り板のことで、「お金や書物を子孫に残すよりも、善い行いを積み重ねることが、長く子孫を繁栄させる方法である」という教えが記されています。詩文や文様は夜光貝の殻を薄くした真珠層の部分を文様の形に切りとり貼りつける螺鈿技法が施されています。詩文の周囲にはたわわに実った葡萄と三十五匹の栗鼠で飾られており、葉脈は毛彫が施され、栗鼠は爪先まで細密に表現されています。葡萄と栗鼠は多産多福を意味し、それら文様と「子孫繁栄」を願う家訓とを組み合わせた作品です。

浦添市美術館
URASOE ART MUSEUM

前田國男展—漆芸の探求と造形への挑戦—



沖縄の漆芸家を紹介する本展覧会の開催は7回目を数えます。今回は作家として活動を続け、昨年5月に沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者に認定された前田國男(まえだくにお)氏とその作品を紹介します。

前田氏は1943年(昭和18)大宜味村謝名城に生まれました。芭蕉布で有名な喜如嘉から奥に進む山手の集落です。兄は漆芸家の前田孝允氏(沖縄県指定無形文化財「琉球漆器」保持者)で、國男氏は次男です。前田氏は中学校を卒業後に那覇市の沖縄県立沖縄工業高等学校漆工科に進学し、1962年(昭和37)に高等学校卒業と同時に漆器の老舗「紅房」に入社して堆錦を学びました。この年は日本漆工協会より漆工奨学賞を受賞し、那覇市伝統工芸伝習生として美術家の安谷屋政義や安次嶺金正などからもスケッチやデザインの指導を受けたといいます。しかし、翌年に母校にもどり漆工科の助手となり、その後は沖縄タイムス社主催の沖展に出品するなどして創作活動を行うようになりました。

1969年(昭和44年)に紅房を退社し、兄の孝允氏が設立した前田漆芸アトリエに入り、兄弟で活動を始めます。将来は三男の孝安氏と三人で故郷の謝名城に工房を開く構想もあったそうです。1975年(昭和50年)に伝統的な漆の製法や技術を学ぶため再び紅房に入社しました。特に沖縄独特の朱漆に魅了されたそうです。このころの堤盤「曙」の朱色は、デイゴの花の色を表現しました。そして、1978年(昭和53年)に沖展会員推挙、翌年に同展審査員となり、日本工芸会西部支部展で初入選を果たしました。毎年出品を重ねる目覚ましい活躍でしたが体調不良もあり、1985年(昭和60年)に郷里の大宜味村へ居を移しました。前田氏は区長や村議会議員を務めながらも作品を創作しつづけてきました。



堤盤「曙」1978年
19.0cm×27.0cm×21.0cm



黒漆螺鈿花器「大宇宙」1996~98年頃
10.4cm×53.5cm×37.0cm



筥「古代への想い」2007年
16.0cm×45.5cm×28.0cm



黒漆螺鈿盛器「せせらぎ」2015年
21.0cm×33.0cm×55.0cm

1989年(平成元年)に設立に関わった大宜味村工芸展「いぎみていくま会」は現在も続く地域の代表的な展覧会です。

本展覧会では、1972、3年(昭和47、8年)ころの初期の作品9点と大宜味村へ移ってからの作品をあわせて約30点紹介します。前田氏の作品は、麻布と漆で胎を自在に造形する乾漆技法、そして多いもので15回と厚塗りをほどこす塗りに特徴があります。縦にのびる大型の花器、三点同時に製作したという堤盤「曙」「沈黒」「彫漆花文」は塗り分けとぼかし、螺鈿、複数色を塗り重ね彫る彫漆など技法を変えた製作に挑戦しています。身近にあるクスノキを用いた胎で、抽象的で大胆、そして生命力を感じさせる形の花器やオブジェがユニークです。「森の精」「海神祭」「せせらぎ」といった居住地ヤンバルの自然から「古代への想い」「大宇宙」といった壮大なテーマまで創意に満ちています。意外なことに前田氏の個展は今回が初めての開催です。この機会に前田國男氏の半生にわたる創作の世界をご覧ください。

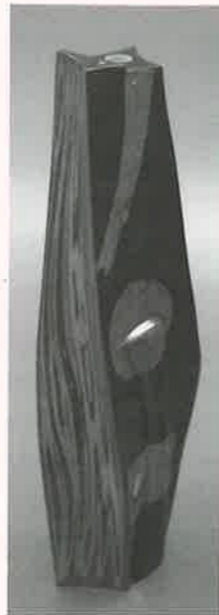
【会 期】3月20日(水)~3月31日(日)
*21日(木)春分の日 開館

【料 金】無料

【関連講座①】「漆芸家前田國男の魅力」
糸数政次氏(沖縄県立芸術大学教授)
3月23日(土) 14時~16時 講堂

【関連講座②】「紅房時代と創作活動よもやま話」
前田國男氏
3月30日(土) 14時~16時 講堂

【作家ギャラリートーク】会期中の土・日曜日 午前11時~12時



オブジェ「海神祭」
2008年頃
10.0cm×10.0cm×45.0cm

福づくし!縁起よしのおめでたい漆器展

今回は当館の漆器コレクションの中から、「おめでたい文様」を集めて紹介します。人々は幸福や長寿といった願いを、漆器や工芸品の文様の中に表現してきました。特に中国では、それらは吉祥文と呼ばれ、良いことやおめでたいことを象徴する文様として広がり、やがて周辺地域へも伝わっていきました。第3期の常設展では新春にふさわしく、縁起のよい漆器を集めて紹介します。

第1室 琉球漆器から沖縄の漆器へ

16世紀~17世紀につくられた琉球王国時代の漆器から現代の作品までを展示し、琉球漆器の魅力ある歴史を紹介します。

第2室 福づくし(さまざまな吉祥文)

吉祥を表す文様は実に多彩です。人々の願いが込められた、さまざまな吉祥文を紹介します。

第3室 子孫繁栄

多くの子や孫に恵まれ、世代が連綿と長く続くことを象徴する瓜や葡萄、栗鼠、石榴など子孫繁栄を願う文様を紹介します。

第4室 不老長寿

長寿を象徴する桃や鶴、松などの文様は日本でも縁起のよいものとして知られています。また、桃などの形そのものを象った漆器を紹介します。

第5室 各地の漆器と漆コラム

日本、中国、朝鮮のおめでたい漆器と漆コラムのご紹介。

【会 期】2019年2月9日(土)~5月19日(日)

【観 覧 料】一般200円(160円) 65歳以上160円

大学生130円(100円) 高校生以下 無料

* ()は20名以下の団体料金

【会 場】常設展示室

【関連講座①】「中国の吉祥図」

湊 信幸氏(東京国立博物館名誉館員・客員研究員)

3月2日(土)14時~16時 定員 30名

場所 常設展示室内 *申込不要

【関連講座②】「近世首里・那覇の人口増大による都市化と琉球漆器生産」

安里 進氏(沖縄県立芸術大学附属研究所客員研究員)

3月16日(土)13時~14時20分

場所 美術館講堂 *申込不要

【関連講座③】「浦添市美術館の思想と建築」

伊良波朝義氏(尙義空間設計工房代表取締役)

3月17日(日)14時~16時

場所 美術館講堂 *申込不要

*各講座の受講には当日の展覧会観覧チケットが必要です。



朱漆螺鈿瑞雲鎔絵東道盆
琉球:18~19世紀



黒漆牡丹菱万字文鎔絵檀
琉球:18~19世紀